

斗いの振興、生活の振興、みんなの力で会館(共和国)を作ろう！ 101万円が金中！

寿のいわる、浮浪者、殺しに、我々は

日雇の運命の一つを見る。

我々が生きのびる為には

どうすればよいかー

多くの仲間と語りたいたい

今晚7じより西成市民館にて。

共感と異和感

前回の報告はうらにあり

ますが、参加者にこの事件

をはじめて知ったときの感

想を聞いたところ、ほとん

どの人が、自分の身近な固

題として、いきどおりを覚

えたと答えています。

しかし、なぜ「青カン

せざるをえなくなったのだ

ろうか」と話していくと、

あいつらは働く意欲がない、

酒ばかり飲んでいると言

う厳しい答えがかえってき

きました。

しかし、はたしてそれだけ

でしょうか。

わたらの支えは

なんやろか？

それでは今働いている仲

間はどうかと言うと、ノム。

田のトヤ代の為によくと言

うん、なかでも、朝、目が

覚めなければいいと思うと

きがあると言う仲間の言葉

は印象的でした。

そして、どうなってもい

いと思う時があると言う言

葉の内に締められているこ

とは、今働いている仲間と

「青カン」している仲間との

間には、はっきりと線引きは

できず、誰でもが、いつ青

カン」しなければならなく

なるかもしれない、との危

機感を持って生きている

と言うことだと思います。

だからこそ、わしはちがう

んだと自らをいっている

ることになるのではないで

しょうか。

それにしてもそう思うこと

は何としないことではな

う。

どうなっているから

何がするゾへ

たしかに我々を取りまく

環境は厳しいものがあります。

しかし、どうせ生きるなら

もっと毎日の生活にこだわ

り、満足を得ようではあり

ませんか。

出面が安ければ上げさせ

ようではありませんか。

我々がもっと自由に集まれ

る場が欲しいと思ったら、

自分達で作ろうのではあり

ませんか。

多くの仲間の意見を聞き

たいと思います。

青カン者殺しを考える。報告

「こころの青カン者を中学生等が襲撃・殺害していた事件がマスコミをにぎわしていた折も折、今度は学校で中学教師が生徒を刺すという事件が発生し、文部省のお役人も大あわてのようです。『中学生はけしからん』、学校が、教育が悪い』だけで、『ガガをしたり殺されたりした仲間たちは泣かばいそうにありません。アブレが続くなか、いつ青カンを強いらるかしれない』というところから、考え話し合いました。

事件の根は？

「ほんまに頭にくるわ。こんなことやった奴らは、死刑にせなあかん。大きくなって極道になるんや」
 「そうはいうても、この中学生もかわいそうやと思う。今の学校は勉強ばかりで、勉強のだけへん。レールからはずれてしもた子供は落ちこぼれて非行に走るんや。大人でもレールからはずれて、はいあがるのはむづかしい。子供も同じや」
 「それやったら、なんで親や教師に反抗せえへんのや。なんで日浮

浪者凸ばかりぬらうんや」

「アメリカでも貧乏な白人ほど

黒人をよいじめよる、それと同じや」

「やっぱり、世間がワシラ日産

いをバカにしとるんや。それが

子供らにもうつったと思う」

「やった中学生らも日浮浪者を

おそつても警察だになまとは

思わなかった凸というところだ

「二年程前、行政が『浮浪者を

ミナミから一掃しよう』という

キャンペーンで、兵糧攻めや

うて残飯出すとか水をまけと

かいうたけど、これはドナねず

みの駆除と同じやり方や」

「人間として、人格を認めてえ

へんのや」

なぜ青カン

するの？

「それにしても歯かゆいのはやうれた方が全然抵抗せんことやこれも問題や」
 「青カンを長いことしてゐる人は労働意欲がない、どうでもええと思とるんやうな」

「働いたらうまいもんも食える

レフトンでぬらゆるのにな」

「働いてええ目するといふのと

どうでもええといふのは、堂々

めぐりや」

「これをたらしきうなあかんねん

けど、なんで青カン続けるのか

な」

「早くつてきて、働きとうても

働らかへん、仕事もないということがある、だんだん投げやりにもなるわ」

「家族もお水へんし、生きてるの

が嫌やといふのは、働いてる者も

青カンしてる者もかわらへんで」

「毎日、ゆびしいで、毎朝目さま

して、ああ生きとるな、また部屋

代払うために働らかなあかんと思

う」

「なんで、あくせく仕事をみつ

てきて働いてまで生きていかなあ

かんのか」

「青カンしてる者も、あくせく

働いてる者も、普遍的な人間の

あり方からいうたら、同じやと思

う。このふたつを包みこむような

理論を作らなあかん」

また、青カンには病気がつきも

のですが、なぜ青カンせずに倦怠

感をもちながら働くのか、これは

「会館」建設の問題とも無縁では

ないはずだ。